

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2172200210		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム海津「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江627		
自己評価作成日	2019年11月27日	評価結果市町村受理日	2020年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/1/index.php?act=on_kouhou_detail_022_kan=true&amp;j_gyosyoCd=2172200210-00&amp;servi_cd=320&amp;type=search">http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/1/index.php?act=on_kouhou_detail_022_kan=true&amp;j_gyosyoCd=2172200210-00&amp;servi_cd=320&amp;type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	2020年1月15日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

地域にねぎした事業所を目指しご利用者様一人ひとりが納得しその方らしく暮らして頂ける環境づくりに配慮し、人としての尊厳を遵守するケアを念頭に支援させて頂いています。また重症化の状況にも対応し、ご家族様、主治医との連携を密にしながる看取り業務に万全を期すよう体制づくりをしています。常日頃からご家族様のご相談やご要望にも耳を傾けてご本人のみでなく、ご家族様にも、ご満足いただけるケアを提供できるように努めている

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者がその人らしく穏やかな生活ができるように、洗濯物干しやたみ、ゴミ出し、野菜作りや縫い物等の本人の力を活かした支援をしている。地域と関わりながら事業所の理解を深める為に、認知症サポーター養成講座や認知症啓発事業への協力、夏祭りやサロン等を開催している。行事、避難訓練等を隣接する事業所と連携しながら実施し、利用者や職員とも顔なじみとなり相互で協力しあう良好な関係を築いている。職員が年2回は自己評価で反省点を振り返り、目標を持ち取り組めるように管理者が面談し、質の向上につながる仕組みにしている。子育て中の職員には、土日や長期休暇時に子どもと共に出勤できる体制を認め、離職せず明るい雰囲気働きやすい職場にしている。その為、利用者との関係継続が長く続き良いケアが提供できている事業所である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の職員会議の冒頭に運営理念、職員の心得の唱和をしている。全職員で共有の確認と日々実践できるように努めている	理念を玄関に掲示し、意識づけできるように毎月の会議で唱和している。利用者のケアにつながるように、ユニット毎の年目標及び個人目標を立案し、個人毎に振り返りをしている。しかし、理念について職員全員での話し合いができていない。	ケアの根幹である理念について、職員で話し合いの機会を作り、更に理念についての理解を深めることが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園、小学校の運動会、地域の廃品回収に協力したり、天気の良い日は周辺の散歩に出かける。地域の方も散歩しやすいように畦道に沢山の彼岸花を咲かせてくださっている。季節の野菜を頂いている	散歩時に挨拶を交わしたり、野菜を頂いたりしている。地域ボランティアや夏祭りで住民と触れ合っている。地域の防火訓練、認知症啓発事業の協力や小学生に認知症への理解を促す活動に職員が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時民生児童委員、自治会長さんにお話することがある。認知症サポーターとして地域の小学校に出前授業をしたり啓発活動ではスーパーマーケットでパンフレットを配布してアンケート調査に参加している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4施設合同の運営推進会議において活動状況を報告しお互いを高められるよう努力している。ご家族や地域の方々の意見を伺いサービス向上に活かせるように努めている	行事と組み込んだり日曜開催としたりしてメンバーが参加しやすくしている。消防署員や警察官が参加し防災や事故等への助言を得ている。交流の場としてカフェの意見があり開催した。欠席した家族には議事録を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に高齢介護課、消防署幹部、警察署の方々の出席のもと活動状況を把握していただいている。サポーター養成講座においては市と協力し小学校で出前授業を行った	様々な書類提出時に市の担当者に実情を伝えている。市と連絡を密にし、認知症啓発事業で住民へのアンケートに協力している。市のケアサポート作成委員に就任し、委員会や会議に職員が参加し情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を中心に実践中。身体拘束対応研修に職員が参加して全体会議において勉強会を行い理解徹底に努めている。毎月のTM会議において身体拘束対応について発表、検討し身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の指針を定め、3ヶ月に1回委員会を開催し会議で職員に周知している。人感センサーやベッド柵について、低床ベッドにするなどの検討をしている。虐待の芽チェックリストを実施し、課題を見つけ拘束しないケアをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	会議の場で高齢者虐待に関する勉強会を実施し正しい知識を理解する。話し合い検討できる管理体制、職場風土の構築に取り組んでいる。虐待が見過ごされることがないように話し合いをしている		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があれば日常生活支援事業や成年後見制度が活用できるように支援している。ケアマネの勉強会や毎月の勉強会でも支援出来るようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は事前にご家族様に十分な説明を行っている。契約内容に変更がある場合はその都度説明して同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン送付時に近況を伝え、家族様には日頃から話しやすい雰囲気づくりに努めている。訪問時には、利用者の情報を伝え、話しやすい関係づくりを行っている。ご意見をいただいたときは職員間で共有し運営の向上に取り組んでいる	年1回は家族アンケートを実施し、意見や要望を聞いている。面会時に話しやすい環境を作り、利用者の状況を伝え意見を聞いている。意見がもらいやすいように、2・3ヶ月に1回は行事写真を送付し電話で聞く時もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から出た意見がトップに反映するよう意見の出しやすい職場づくりにこころがけている。管理者は年2回の個別面談をしてケア内容や人間関係を聞いている	職員会議や日常の業務内及び年2回は、自己評価とともに個人面談を実施し意見を聞いている。機器購入や修繕等は上部に伺い対応している。ストレスチェックを実施し、心の健康や家庭環境に配慮した勤務に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者との密な連携や職員がやりがいを持って働ける場所を目指し一人ひとりの生活環境を理解し勤務体制を整えキャリアアップが出来る様に指導している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験やキャリアに応じて研修の参加を促し心のトレーニングをするよう努め、全職員がスキルアップできるよう指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	トップマネジメント会議での毎月の会議や勉強会を実施することで、情報交換する場があり、2ヶ月に1回のケアマネ連絡会の参加で同業者の交流もしている		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談、ご家族の入所申し込み時、生活状況、家族状況を把握するよう努めご本人の気持ちを受け止め、寄り添いながら入所生活に生かせる信頼関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のご苦労や今迄のサービスの利用状況これまでの経緯についてゆっくりお話し伺いながら早期に信頼関係が築ける様に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談事やご本人や家族の思い状況等確認した上で、可能な限り柔軟な対応を行い、必要としている支援に添えるよう相談を繰り返すことに努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の想い、苦しみ、不安、喜びなど傾聴、共感とともに支えあえる関係を築ける様に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報の共有に努めご本人を支えていく為の協力関係が築ける様に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	盆や正月に家族と一緒に過ごされる利用者様もお見えになる。ご家族となじみの美容院や医院にも出かけられている。人とのつながりを継続できるよう支援している	友人、親族、趣味の仲間や馴染みの理容師等が面会時は、再来訪をお願いしている。携帯電話の充電、手紙の住所確認や声が聞きたい人には電話をかける支援をしている。自宅や喫茶店等には家族に協力を依頼し関係が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しくお食事したり、散歩、レクリエーション等を利用して関係が円滑になるよう働きかけをしている		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅に戻られたり他の施設に移られた場合でも相談に乗ったり状況を把握に努めている。医療機関に入院された利用者様には、病院に伺い様子の確認、病院との連携をしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所の際のアセスメントにより生活歴、生活、性格をご家族にお尋ねする。日々のかかわりの中で雰囲気やしぐさ、言動などから思いや意向の把握が出来る様に信頼関係に努めている	夜間や入浴時に話しかけを工夫し、本人の言葉で言えるように思いを聞いている。耳が遠い人には、正面から話しその人に合った聞き方や困難な人には、些細な変化を見逃さずに声かけし、顔色や食欲等から把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談やアセスメントで本人様の生活歴を知るように努めている。プライバシーに配慮しつつご本人やご家族様等のかかわりの中で、生活歴や馴染みの暮らし方等取り入れていける様努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活のかかわりの中で利用者一人ひとりの生活のリズム心身状況を記録して職員が情報を共有し申し送り等を取り入れ現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の要望やかかりつけ医の意見を聞き担当者会議で検討し適切な介護計画となるように作成している。状況の変化時は速やかに見直し出来る様に会議にかけ話し合い検討するようにしている	本人や家族に希望を聞き医師の意見も参考に介護計画を作成している。全利用者のモニタリングを毎月実施し、担当者会議は全職員が参加している。必要時や状態変化時はすぐ見直し、申し送りで伝達している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに食事量、水分量、排泄状況、身体状況等日々の暮らしの様子を記録して申し送りや職員間で状況を常に共有し実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて通院、送迎、ご家族の希望の時間に対応しての昼食、夕食の提供をする等満足いただけるよう努力している		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に行政、消防署、民生委員、駐在所、自治会長等の参加を呼びかけ周辺状況や支援に関する情報の協力関係をきづける様に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時や入所後もご本人やご家族の希望を確認しながら、協力医療機関やかかりつけ医での継続的な医療が受けられるよう支援している。状況に応じて家族に代わり受診の付き添いもしている	入居時に本人や家族の希望で協力医に変更する人がある。透析患者は連絡ノートでやりとりし、かかりつけ医受診時は、状況を記載した連絡票を家族に渡し受診後に報告を受けている。協力医とは24時間連携体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のかかわりの中で体調の変化や健康管理に注意を払い、早期の段階で家族に報告し協力医療機関に受診できるようにしている。看護職員不在時には併設の看護職員と連携し対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様が安心して治療が受けられるように医師と連絡連携をはかり情報提供できるようなところをけている。入院中も出来るだけお見舞いし早期に退院支援に結び付けられるように情報提供している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について状況が変化してきたなどは家族と話し合いを重ね確認しあい協力医協力病院との連携を取りながら対応している。他施設との協力体制も整えている	看取り介護に関する指針があり、希望に合わせている。重度化した場合、医師から家族に説明をし意向を確認している。看護師が職員に指導をし状態を確認しながら、家族と一緒に看取っている。看取り後は、エンゼルケアを施し、他の利用者達と共に見送っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に迅速に対応できるようにマニュアルや連携網を作成している。救命訓練を実施している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の場を利用して周辺の福祉施設、市町村、警察署との協力体制地域住民のかたの災害対策の構築に結び付けられるよう努めている。地震、火事、水害対策の訓練を実施している	隣接する施設と合同で自然災害や夜間想定も踏まえ、住民も協力し避難訓練を実施している。水害時は高い建物への避難依頼や住民が被災時の受け入れを声かけしている。水、米、缶詰等を備蓄している。	

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者として人格を尊重してその方の誇りやプライバシーの確保は常に保てるように心掛けている。必ず声かけして行動するように努めている	呼称は○○さんとし、その人に合わせて声の大きさやトーンに注意している。入室や排泄時は、必ずノックや声かけをしている。身だしなみ・言葉遣いチェックリストを実施し、会議で話し合い利用者を尊重した姿勢で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人がお話されたり動作や表情から真意を汲み取りケアの情報共有に生かしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人との日々のかかわりの中で1日の過ごし方を把握したうえで体調、天候なども考慮し過ごしていただいている。入浴もご本人の希望に添えるよう考慮している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カットの希望はご本人の意思を聞きご自分の利用したい所でできるよう支援している。入浴時の着替えの準備をご自分で選択できるようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者の好みや体調を考慮して調理している。季節のもの地域の行事食を嚙下状態に応じて個別の食事形態にて提供している。食事の準備のテーブル拭き、掌の消毒等々できることのお手伝いもして頂く	プランターで育てた野菜、TVや広告を見て希望する献立や行事食にしている。下拵え、食卓拭き等のできることを職員としている。職員も側に座り介助しているが、食事中の人がいても片づけを始めることで食器の音などが気になり楽しい雰囲気が損なわれていた。	全利用者が食事を終えてから片づけ業務をする等で、最後まで食事を楽しむような配慮が望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は介護記録に記入し摂取量がすぐわかるようにしている。状態に合わせて高カロリーなゼリー食を提供することやタイミングやメニューを変えられるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きや義歯の手入れがご自分でできる方はご自分で行って頂く。利用者に応じた口腔ケアを行っている		



グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しご本人の表情やサインを見逃さず迅速に対応できるようにしている。寝たきりの状態の方も体調を見ながら2人介助にてトイレでの排泄支援に努めている	トイレ排泄を基本とし、一人でトイレに行けるよう「トイレココ」と大きな字で表示している。トイレ誘導する人もいるが、パッドの種類やサイズを検討し自立に向けた支援をしている。リハビリパンツから布パンツになった人がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を把握して水分多めに摂取して頂き体操や散歩の声掛けをしてトイレに行かれた時には腹部のマッサージを行ったりしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆったりとのんびりと入浴する事で楽しみとなるようにしている。温度や順番、入浴剤なども好みを尋ねながら支援している	洗顔料、シャンプー、ボディソープ、入浴剤、足浴、入浴頻度や順番等は希望に合わせている。嫌がる人には声かけの工夫をしている。職員と歌を歌ったり、昔話をしたりしてリラックスできる時間になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの体調や体力、眠前薬の服薬状態を把握している。日光浴や適度な昼寝を行うなどして休息安眠出来る様に環境を整えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指導のもと利用者様の薬の把握に努めている。利用者様の状態に応じ確実に服薬できるよう飲みやすさ飲むタイミング等の工夫をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換や張りのある日々を送って頂けるようにその方にあつたお手伝いを見つけ出し楽しみにつなげていけるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近所を散歩している。近くの公園に出かけたりテラスで日光浴をしたりしている。外出に出かけられない時はお持ち帰りサービスを利用して外出気分を味わってもらっている	近隣の散歩、初詣、喫茶店や公園、桜・梅や彼岸花等の季節の花見に車イスの人も出掛けている。郵便局に手紙を投函、テラスでお茶や弁当を食べる、日向ぼっこ、草取り、水やり、洗濯物干しやゴミ出しなど外気に触れる機会を作っている。家族に外出の協力依頼する時もある。	



グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金に関する不安や不満が出てこない様にご家族と話し合い満足いただけるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により電話しやすいように声をかけて直接お話しできるよう支援している。手紙は便箋封筒お渡しすればできるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感のある中に季節感を取り入れている。室温、湿度、採光、換気にも気を付けている	玄関先に季節の花を植え、お迎えの言葉を記した黒板、季節を感じる飾り物や装飾品を置いている。居間には利用者で作った干支の貼り絵や様々な作品や行事写真を飾っている。ソファは手作りのカバーを掛け、室温、換気や臭い等に気を配り居心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや食卓の席はご本人の希望や仲の良い方が近くで過ごせるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使用されていた品使い慣れたものを居室において頂いて精神的に負担がかからない様に工夫している	入口に好きな暖簾を掛け、使い慣れた寝具類や家具を持ち込み、仏壇、位牌、家族の写真や自分の作品を飾っている。猫好きな人には猫の置物や本、花好きな人にはプリザーブドフラワーの花かごを置き、その人らしい居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行時や車椅子での動線確保に気を配りご本人の不安を取り除き安全な環境での自立支援につなげられる様に工夫している		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172200210		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム海津「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江627番地		
自己評価作成日	2019年11月27日	評価結果市町村受理日	2020年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/1/index.php?act=on_kouhou_detail_022_kani=true&amp;j_gyosyoQ=2172200210-008&amp;servi_ceQ=320&amp;Type=search">http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/1/index.php?act=on_kouhou_detail_022_kani=true&amp;j_gyosyoQ=2172200210-008&amp;servi_ceQ=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	2020年1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の職員会議の冒頭に運営理念、職員の心得の唱和をしている。全職員で共有の確認と日々実践できるように努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園、小学校の運動会、地域の廃品回収に協力したり、天気の良い日は周辺の散歩に出かける。地域の方も散歩しやすいように畦道に沢山の彼岸花を咲かせてくださっている。季節の野菜を頂いている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時民生児童委員、自治会長さんにお話することがある。認知症サポーターとして地域の小学校に出前授業をしたり啓発活動ではスーパーマーケットでパンフレットを配布してアンケート調査に参加している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4施設合同の運営推進会議において活動状況を報告しお互いを高められるよう努力している。ご家族や地域の方々の意見を伺いサービス向上に活かせるように努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に高齢介護課、消防署幹部、警察署の方々の出席のもと活動状況を把握していただいている。サポーター養成講座においては市と協力し小学校に出前授業を行った		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を中心に実践中。身体拘束対応研修に職員が参加して全体会議において勉強会を行い理解徹底に努めている。毎月のTM会議において身体拘束対応について発表、検討し身体拘束しないケアに取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の場で高齢者虐待に関する勉強会を実施し正しい知識を理解する。話し合い検討できる管理体制、職場風土の構築に取り組んでいる。虐待が見過ごされることがないように話し合いをしている		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があれば日常生活支援事業や成年後見制度が活用できるよう支援している。ケアマネの勉強会でも支援できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は事前にご家族様に十分な説明を行っている。契約内容に変更がある場合はその都度説明して同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン送付時に近況を伝え、家族様には日頃から話しやすい雰囲気づくりに努めている。訪問時には、利用者の情報を伝え、話しやすい関係づくりを行っている。ご意見をいただいたときは職員間で共有し運営の向上に取り組んでいる		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から出た意見がトップに反映するよう意見の出しやすい職場づくりにこころがけている。管理者は年2回の個別面談をしてケア内容や人間関係を聞いている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者との密な連携や職員がやりがいを持って働ける場所を目指し一人ひとりの生活環境を理解し勤務体制を整えキャリアアップが出来る様に指導している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験やキャリアに応じて研修の参加を促し心のトレーニングをするよう努め、全職員がスキルアップ出来るよう指導している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	トップマネジメント会議での毎月の会議や勉強会を実施することで、情報交換する場があり、2ヶ月に1回のケアマネ連絡会の参加で同業者の交流もしている		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談、ご家族の入所申し込み時、生活状況を把握するよう努めご本人の気持ちを受け止め、寄り添いながら入所生活に生かせる信頼関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のご苦労や今迄のサービスの利用状況これまでの経緯についてゆっくりお話し伺いながら早期に信頼関係が築ける様に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談事やご本人や家族の思い状況等確認した上で、可能な限り柔軟な対応を行い、必要としている支援に添えるよう相談を繰り返すことに努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の想い、苦しみ、不安、喜びなど傾聴、共感しともに支えあえる関係を築ける様に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしのでき事や気づきの情報の共有に努めご本人を支えていく為の協力関係が築ける様に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	盆や正月に家族と一緒に過ごされる利用者様もおみえになる。ご家族となじみの美容院や医院にも出かけられている。人とのつながりを継続できるよう支援している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しくお食事したり、散歩、レクリエーション等を利用して関係が円滑になるように働きかけをしている		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅に戻られたり他の施設に移られた場合でも相談に乗ったり状況を把握に努めている。医療機関に入院された利用者様には病院に伺い様子の確認、病院との連携をしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所の際のアセスメントにより生活歴、生活、性格をご家族にお尋ねする。日々のかかわりの中で雰囲気やしぐさ、言動などから思いや意向の把握が出来る様に信頼関係に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談やアセスメントで本人様の生活歴を知るように努めている。プライバシーに配慮しつつご本人やご家族様等のかかわりのなかで、生活歴や馴染みの暮らし方等取り入れていける様努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活のかかわりの中で利用者一人ひとりの生活のリズム心身状況を記録して職員が情報を共有し申し送り等を取り入れ現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の要望やかかりつけ医の意見を聞き担当者会議で検討し適切な介護計画となるように作成している。状況の変化時は速やかに見直し出来る様に会議にかけ話し合い検討するようにしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに食事量、水分量、排泄状況、身体状況等日々の暮らしの様子を記録して申し送りや職員間で状況をつねに共有し実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて通院、送迎、ご家族の希望の時間に対応しての昼食、夕食の提供をする等満足いただけるよう努力している		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に行政、消防署、民生委員、駐在所、自治会長等の参加を呼びかけ周辺状況や支援に関する情報の協力関係を築ける様に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時や入所後もご本人やご家族の希望を確認しながら、協力医療機関やかかりつけ医での継続的な医療が受けられる様支援している。状況に応じて家族に代わり受診の付き添いもしている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のかかわりの中で体調の変化や健康管理に注意を払い、早期の段階で家族に報告し協力医療機関に受診できるようにしている。看護職員不在時には併設の看護職員と連携し対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様が安心して治療が受けられるように医師と連絡連携をはかり情報提供できるようなところがけている。入院中もできるだけお見舞いし早期に退院支援に結び付けられるように情報提供している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について状況が変化したときなどは家族と話し合いを重ね確認しあい協力医協力病院との連携を取りながら対応している。他施設との協力体制も整えている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に迅速に対応できるようにマニュアルや連携網を作成している。救命訓練を実施している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の場を利用して周辺の福祉施設、市町村、警察署との協力体制地域住民のかたの災害対策の構築に結び付けられるよう努めている。地震、火事、水害対策の訓練を実施している		



グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りや人格を尊重し言葉かけに気をつけている。会議で話し合いご本人の気持ちを大切にさりげないケアに心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方に合わせた声かけをして、日常の中で表情や反応を注意深くキャッチしながら、ご本人の思いや気持ちを伝えやすい場面づくりに心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、それに合わせた対応を心がけている。その日のコンディション、その時の様子を見ながら希望を尋ね相談している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは基本ご本人の意向で決めている。ご自分で決められない方は職員が準備してお尋ねするようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望のメニューを工夫したり、季節の行事の料理をとりいれ昔ながらの料理を利用者の形態に合わせて楽しんでいただけるようにしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調と1日の水分量、食事量は毎日把握している。高カロリーのゼリーを取り入れて食べれない方の栄養にも支援できるようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状況に沿った個別支援にてケアは行っている。職員はその方の支援方法に沿ってケアしている		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握してチェック表も使用しながらトイレでの排泄が習慣づけられる様誘導している。寝たきりの方も出来るだけトイレでの排泄を行っていただけるよう支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し十分な水分摂取ができるよう支援している。体操や散歩、時には腹部マッサージを行う		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤を使用して楽しんで入浴していただけるようにしている。希望に合わせてタイミングの良い声かけが出来る様に信頼関係に努めている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動が活発にできるよう生活のリズムを整えている。体調や体力に合わせて休憩時間を設けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指導のもと、利用者様の薬の把握に努めている。利用者の状態に応じ確実に服薬できるよう飲みやすさ飲むタイミングの工夫をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1日のかかわりの中で出来る事を見つけ出して楽しみにつながるよう支援し気分転換を兼ねて掃除等のお手伝いもして頂く		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調や天候に応じて行っている。近所の喫茶店、公園、テラスでのモーニング、ティータイム等行っている		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金に関する不安や不満が生じないようにご家族と話し合い満足いただけるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により電話しやすいよう声かけし直接お話しできるよう支援している。携帯電話を使用されている方も使い方等支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にイベントの飾りつけをして季節感を取り入れて生活感がつたわる空間づくりを工夫し心安らげるように支援している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内のソファーや食卓席には仲の良い方同士が近くで過ごせるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使用されていた品、使い慣れた物を居室において頂き精神的に負担がかからない様に工夫している。居心地よく安心して過ごしていただけるようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行や車椅子での動線確保に気を配りご本人の不安を取り除き安全な環境での自立支援に繋げられるよう工夫している		